

南蛮の風紀行-29 イベリア半島南西岸を行く



旧市営市場を拡張して整備したセビリアバス・ターミナルは広々として機能的でありながら、どこか落ち付くことのできる作りになっています。

今度の旅の目的地はセビリアで全て訪ねたこととなります。リスボンまで戻る手段は鉄道、飛行機、バスとありますが、鉄道は国境地点での乗り継ぎがむつかしく、あきらめました。そこで次善の策として飛行機と考え、旅行エージェント会社に掛け合っただのですが、週2便しか飛んでいないためこれもあきらめざるを得ません。仕方なく、ユーロラインのエージェントに行ってリスボン行の切符を買いました。

セビリア最後の朝、バスターミナルに向かうと、そこは昔の市営市場だったとのこと、2階が出発ロビーのようになっ

ているのですが、とても趣きのある雰囲気がある上に、丁度、セビリアの歴史的な工芸品の展示もしていて、つい見とれてしまいました。

バスはセビリアを出てまず、国道49号線を西に向かいウエルバを目指します。この往復4車線の自動車専用道路は、国道49号という名前のほかに、500周年街道（自動車道）とも呼ばれています。500周年とはどうゆう意味だろう、誰かの生誕記念だろうかと考えていたのですが、ここでも実はコロンブスの偉業が出てきました。つまり、この自



旧市営市場部分は2階が1階が発券場、出発ロビーになっていて、ちょっとした土産品店やレストランだけでなく、展覧会もやっています。

動車道がポルトガルとの国境まで開通した時期が、丁度スペイン全土でアメリカ大陸発見500年を記念したキャンペーンが展開されていたため、1990年に命名したのです。コロンブスが西インド諸島に向けて出港したのは1492年、帰港したのは1493年ですが、そのくらいの誤差は許容範囲というわけです。

ウエルバは今でこそ片田舎のイメージを抜け出すことのできない鄙びた町でしたが、この町（今は正式には県）こそが、パロス（正式にはパロス・デ・ラ・フロンテーラ）という名のコロンブスが船出をした港町なのです。

さてウエルバからまた500周年街道に戻

り、アヤモンテという町で国教となっているガジアーナ川を渡ります。ここからは道路の名前もサグレス皇子街道と変わります。サグレス皇子とはもちろんエンリッケ航海皇子のことです。彼が航海学校を建てたサグレスという町の名にちなんで、彼のことをサグレスやその周辺のポルトガル人は親しみを込めてそう呼ぶのです。なんとなく「わたしたちの

皇子」という感じです。

サグレス皇子街道から一度、ファーロという町により、バラディーニャという小さな町の先のジャンクションでサグレス街道から南部街道に出ました。本当はそのままサグレス皇子街道を進んで、サグレスまで行きたかったのですが、帰りの日が近づいていてあきらめざるを得ませんでした。エンリッケ航海王子はそのサグレスの町に航海学校を建てて多くの船乗りを育てました。そして彼自身が余生を送ることになったのもその町です。ポルトガル海軍の士官候補生の乗る練習船は「サグレス」という名で、その美しさは世界一とされています。



ポルトガルから迎えに来たらしいバスは、あのパンローナから乗ったバスに比べて相当に見劣りがしました。面白かったのは運転手です。スペイン領内ではスペイン語をしゃべっていたのですが、お客はほとんど変わらないのにポルトガルに入ったとたんポルトガル語をしゃべり始めました。



スペイン（上）からポルトガル（下）に向うにつれて、次第に耕地が増えていきます。



同じ西岸海洋性気候区に属する地帯ですが、やはり大西洋に面した地方の方が降水量が多いのでしょうか。バスの車窓から見える景色はポルトガル領に入った途端、緑が濃くなり、耕地も増えていきます。有名なコルクの木もたくさん栽培しています。

南部街道をまっすぐ行って、リスボンの船遊びの時にくぐった4月25日橋を渡って、そのままリスボンに入るのかと思っていたのですが、バスはパルメラというまちで、右折して国道12号線を北上します。そしてリスボンの少し上流にあるテージョ川が湖のように広がった場所にかかっている橋を渡りました。その橋は1998年に開通したバスコ・ダ・ガマ橋で全長17.2キロメートルは欧州最長です。この橋を通れるとは、期待していなかっただけにうれしくなりました。残照の残る湖面を滑るように進んで、リスボンの町には北側から到着しました。